

泊発電所の再稼働に向けた取り組み状況をお知らせいたします

【審査への対応状況】

- ✓ 当社は、安全確保を大前提とした泊発電所の早期再稼働に向け、原子力規制委員会（以下、規制委員会）による審査に真摯に対応しています。現在、「発電所敷地内断層の活動性評価」を最優先課題に位置付け、残る課題の「積丹半島北西沖に仮定した活断層による地震動評価」「地震による防潮堤地盤の液状化の影響評価」「津波により防波堤が損傷した場合の発電所設備への影響評価」などについても対応を進めています。各課題への対応状況は以下のとおりです。

【今後の対応】

- ✓ 当社は、電気料金値下げによるお客さまのご負担軽減、さらには電力の安定供給のために、早期再稼働を実現できるよう、今後も変わらず、新規制基準適合性審査対応に総力をあげて取り組んでまいります。
- ✓ また、審査の状況や泊発電所の必要性などについてご理解いただけるよう、地域の皆さまとの対話やホームページや広報誌などさまざまな媒体を通じて、丁寧かつ分かりやすい情報発信に努めてまいります。

発電所敷地内断層の活動性評価

【課題】

- 発電所敷地内の断層*1が、将来活動する可能性のある断層等*2（活断層）ではないことを説明する。

（至近の対応状況）

<2019年11月15日 規制委員会による現地調査>

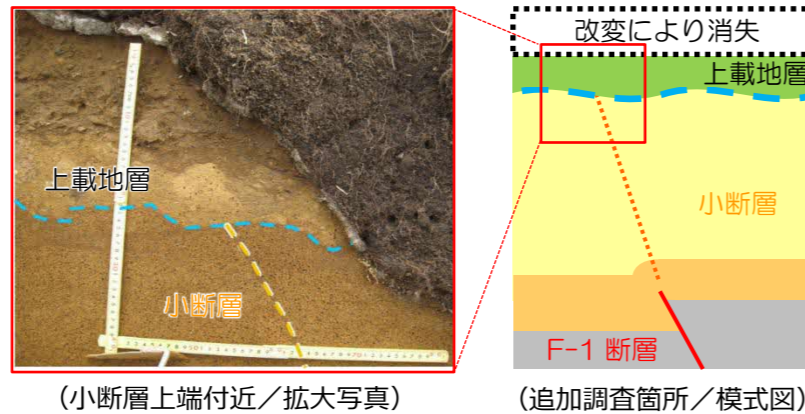
- 規制委員会コメント（2019年2月22日の審査会合で示されたデータでは、F-1断層の活動性を否定できない）を踏まえ、当社が実施した追加調査箇所などをご確認いただいた。

（主な調査内容）

- F-1断層の上にある小規模な断層（小断層）は、F-1断層に関連して形成されているか。
- 上載地層*3が小断層を削り込んで堆積しているか。

（主なコメント）

- 上載地層の堆積年代を確定させる必要があることから、さらなるデータ整理などを行うこと。



（小断層上端付近／拡大写真）

（追加調査箇所／模式図）

<2020年4月16日 審査会合>

（当社説明／概要）

- 現地調査以降に追加で地質・開削調査などを実施し、上載地層を含めた各地層の堆積年代や地層区分などに関する根拠を補強したうえで、あらためて「F-1断層と関連する小断層は、上載地層（約12万～13万年前より古い地層と評価）に変位・変形を与えていない（上載地層が堆積した以降、断層の活動が認められない）ことから、F-1断層は活断層ではないと評価している」ことを説明。

【規制委員会コメント】

- 上載地層法*4により断層の活動性評価を行うにあたり、小断層による変位・変形が上載地層の基底面直下（上図の青波線）で止まっているとの評価の妥当性を高めるため、さらにデータを拡充すること。
- 上載地層の堆積年代を明らかにするためには、地層区分に関してさらに定量的なデータが必要と考えられることから、各種分析・測定などを行い、必要なデータを拡充すること。
- 各調査箇所の地層が周氷河作用*5の影響を受けたものか否かの考え方を整理して示すこと。
- 再度、必要な調査・検討を行い、その結果を審査会合で説明すること。その後、現地調査を行う。

【今後の対応】

- 各種分析・測定などを追加実施し、定量的なデータを拡充のうえ、あらためて発電所敷地内断層の活動性評価について、7月上旬を目処にとりまとめ、その内容を審査会合などで説明していく。

※1 発電所敷地内に認められる11条の断層（F-1断層～F-11断層）のこと。

※2 約12万～13万年前より新しい時代の活動が否定できないもの。

※3 断層を削り込み堆積または断層を直接覆う地層のこと。

※4 上載地層の年代を特定することで、断層の活動時期を判断する方法。

※5 寒冷気候地域の凍結融解作用によって、表層の地層が攪拌され複雑に変形する作用。

積丹半島北西沖に仮定した活断層による地震動評価

【課題】

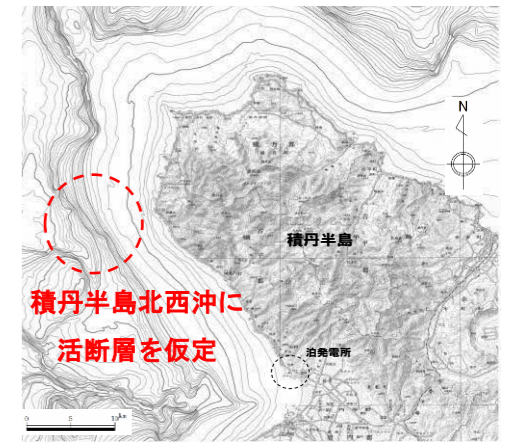
- 積丹半島西岸の海岸地形について、各調査・検討を実施してきたが、泊発電所の安全性をより一層高める観点から、積丹半島北西沖に活断層を仮定することとしており、その地震動評価について説明する。

【規制委員会コメント】

- 地震動評価における断層の方向などについて、より安全側の評価となるように検討すること。

【今後の対応】

- 仮定した活断層による地震動について、審査会合などで説明していく。



活断層の仮定位置

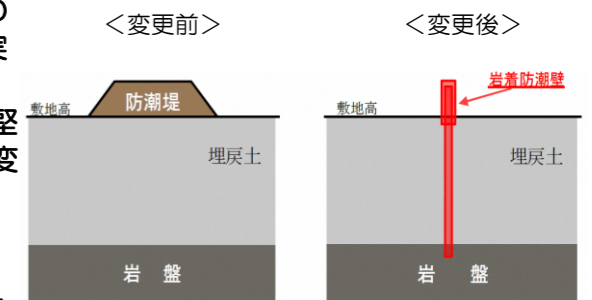
地震による防潮堤地盤の液状化の影響評価

【課題】

- 地震による地盤の液状化評価について、追加の地質調査結果の分析・評価、液状化による被害事例に関する文献整理などを実施し説明する。
- 泊発電所の安全性をより一層高める観点から、岩着支持構造（堅固な岩盤の上に構造物を支持させる形式）による防潮壁に設計変更し、地震・津波に対する健全性の評価を説明する。

【今後の対応】

- 設計変更について検討を進め、変更した仕様による地震・津波に対する健全性の評価について、審査会合などで説明していく。



設計変更の概要（詳細は検討中）

津波により防波堤が損傷した場合の発電所設備への影響評価

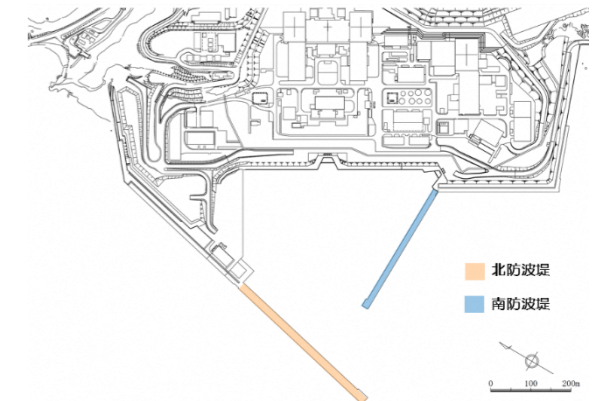
【課題】

- 津波*6により防波堤が損傷した場合の発電所設備への影響について、説明する。

【今後の対応】

- 防波堤の移動や沈下に関する解析や水理模型実験の結果を用いて審査会合などで説明していく。

※6 最新の知見などを踏まえ、津波の水位が保守的に設定されているかを追加解析などにより確認中（再評価を実施中）。



泊発電所防波堤配置図